



会社概要

設立

2012年3月

業種

化粧品原料および商品の製造・販売

代表

代表取締役会長 松本和男

代表取締役社長執行役員 川崎 元士

資本金

40,775千円

事業内容

・化粧品・医薬部外品・医薬品、およびこれらの原料の製造と販売
・天然物(林・農・水産)の分析、機能性物質の抽出、創製および販売
・化粧品、医薬部外品、香料、農薬などに関する調査・創製などの企画
およびコンサルテーション

所在地

[本社]

〒615-8530 京都市西京区京都大学桂

船井交流センター 102号室

(開発部門・品質管理・品質保証部門)

Tel.075-748-9524 Fax.075-748-9547

[研究室]

〒606-8267 京都市左京区北白川西町20-3

京都大学北部総合教育棟(益川記念ホール、研究開発部門)

[研究支援室]

〒606-8304 京都市左京区吉田下阿達町46-29

イノベーションハブ京都

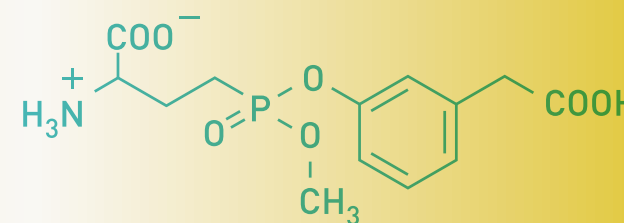
京都大学医薬系総合研究棟

<http://www.nahls.jp>

NAHLS CORPORATION



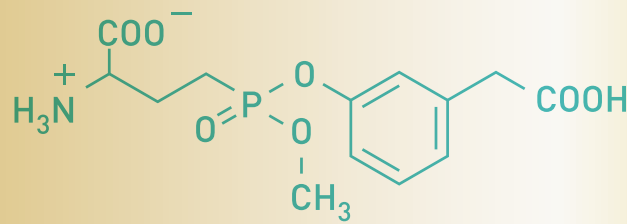
ナールスコーポレーション 会社案内



NAHLS

Nippon Amenity Health [based on] Life Science

CORPORATION



企業理念

研究開発を基盤として、新たな価値の創造により
人々の健康で快適な生活に貢献する

経営理念

- ・顧客に軸をおき、企業価値を持続的に拡大する
- ・研究開発に軸をおき、独創的技術を追求する
- ・大学とのコラボレーションを持続する

社名の由来

NAHLS CORPORATION
Nippon Amenity Health (based on) Life Science
企業理念を英語に置き換え、頭文字をとって名付けた

ごあいさつ

近年、日本ブランドの海外での評価の高まりもあり、国内のエイジングケア化粧品市場は堅実な成長を続けております。

一方でユーザーの商品選択の動機は、単なる有名ブランド志向から、「自分の肌に合う」などの機能を実感できる品質重視へと移りつつあります。即ち、安全・安心や価格に加えて、化粧品の効果がデータでも裏付けられた、納得できる製品を評価する機運が高まっています。

このような時代に、科学的な根拠に基づいた安心して使える化粧品(化粧品原料)、健やかで快い美を提供するエイジングケア製品の創製を目指し、JST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)の支援を受けて、京都大学と大阪市立大学で見出された研究成果(種)の開発が継続されました。その結果、新しい機能性を有する化粧品原料「ナールスゲン®」が誕生し、2012年に株式会社ナールスコーポレーションが設立されました。

本原料の販売は国内からスタートし、徐々に数量を伸ばし海外展開も始まっておりますが、今後は世界市場にも深く浸透させていきたいと考えております。更に弊社は、10を越す大学等の公的研究機関や、関連分野との連携や協業を推し進めており、ここで得られた新たな知見も踏まえて、医薬部外品や医薬品への道も切り拓いていきたいと思っております。これからも、人々の「健やかで快い生活」に貢献できる「ものづくり」を目指して邁進する所存であります。

代表取締役社長執行役員 川崎 元士



プロフィール

1983年 東京大学大学院薬学系研究科修士課程終了。1983-1987年 (財)相模中央化学研究所にて化学合成研究員。1987-1989年 米国オレゴン州立大学にて博士研究員。1990-2010年 大日本製薬株式会社(現・大日本住友製薬株式会社)にて化学合成研究・品質管理・医薬品開発に従事。2010-2018年 長岡実業株式会社にて技術部長、を経て2018年から株式会社ナールスコーポレーション勤務。2019年より代表取締役社長執行役員。薬学博士。

ナールスゲン®とは

株式会社ナールスコーポレーションの原点、または源として名づけられた「ナールスゲン®」は、ヒト皮膚の表皮細胞を活性化し、抗酸化物質としてよく知られるグルタチオンの産生を促進する機能があります。その内因性グルタチオンは、紫外線などによる活性酸素種の発生を抑制して、細胞の傷害などを抑える働きがあります。

一方、皮膚の少し内側にある真皮における線維芽細胞を活性化して、コラーゲンの生合成を促進する働きもあります。同じく、繊維状のタンパク質であるエラスチンの

産生も促します。これらのコラーゲン、エラスチンの働きをよくするためのヒートショックプロテイン (HSP47やHSP70) の産生も増やす特徴があります。加えて、ヒアルロン酸の産生も高める作用が確認されております。

これらは、いずれも皮膚のバリア機能を正常化する成分ですので、保湿などの効果につながってきます。「ナールスゲン®」が、これまでに見られない画期的なスキンケア化粧品素材であるといわれる所以であります。

化学構造式

物理化学的特性

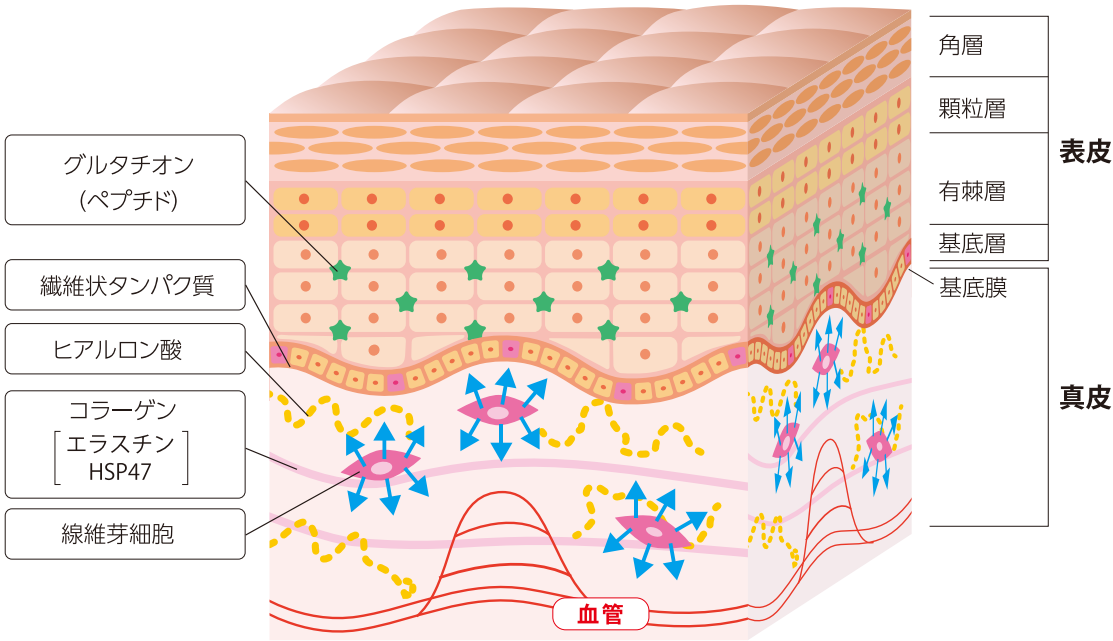
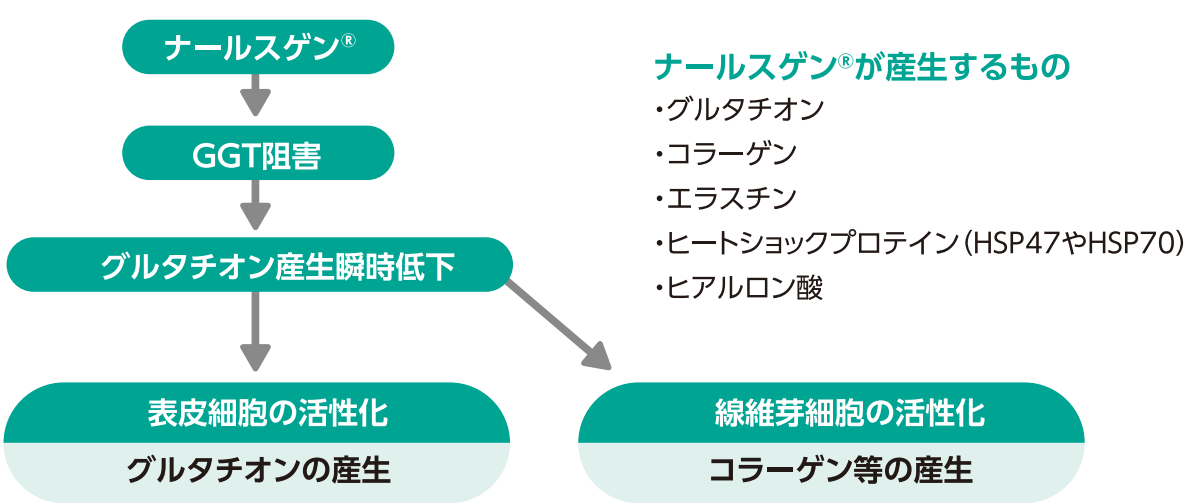
・分子量 331.26
 ・水に可溶、エタノール・有機溶媒に不溶

・弱酸性で安定、アルカリ性で不安定
 ・有効推奨濃度ca. 0.005% (50ppm)

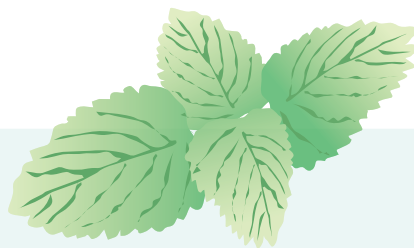
製品紹介

ナールスゲン®を配合した弊社商品には「ナールスミントプラス®」と「ナールスミントジェル」があり、発売後多くのメディアに取り上げられ、全国の有名百貨店やオンラインショップでの販売が進んでおります。

おかげさまで多くのご愛用者様から「お肌にハリ・つや・うるおいが出た」「シミ・ソバカスが減った」「お肌もち肌になり、小じわが減った」といった嬉しい声をいただいております。



杉山義宣：食品と容器 44：132-138 (2003) より引用・加筆



ナールスミントプラス®

ナールスゲン®とハッカ水との極めてシンプルな成分からなる化粧水で、ほのかなミントの香りと爽快感が好評です。ナールスミントプラス®は、肌環境に働きかけ、お肌に重要なコラーゲンや弾力繊維エラスチンの産生をサポートします。

ナールスミントジェル

ヤシ油由来のエモリエント(皮膚をやわらかくする)成分と、京都産ハッカ油、ビタミンCなどの保湿成分をバランスよく配合。お肌(角質層)にすばやく浸透し潤いを与えます。水分・油分を補うことで皮膚を乾燥からまもり、お肌の健やかさをサポートします。特に乾燥肌の方から高い評価を得ています。

ビジョン

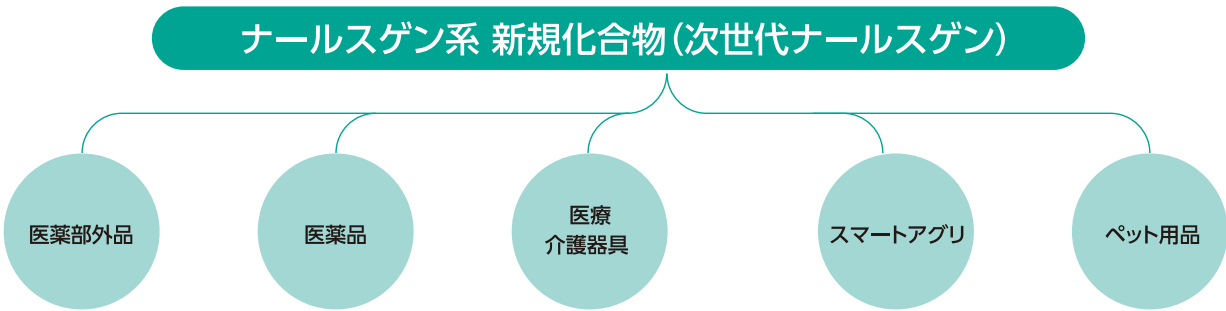
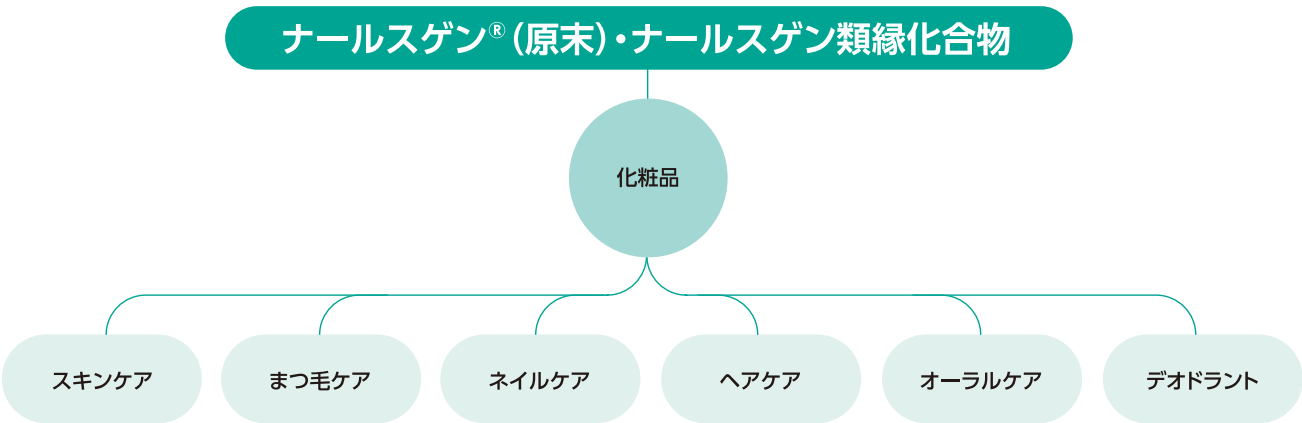
「不老長寿」は人類の夢とされてきました。長寿の夢は実現されつつありますが、一方では国民医療費の高騰が国家財政を脅かしております。その解決法として、「健康寿命」の大切さが叫ばれております。「如何にして健康寿命を伸ばすか??」また、病気の前のケア（予防、未病）が鍵となります。

幸運にも、私たちナールスコーポレーション は、大学の基礎研究を基に「ナールスゲン®」という化粧品素材を市場に提供し、一定の評価をいただきつつあります。さらに、その評価をオーラル化粧品についても展開しています。双方の共通点は、ヒトの皮膚や口腔粘膜に

おける細胞を活性化して、自らがもつ恒常性を徐々に快復させ、皮膚や粘膜をもとの元気な状態に戻すことです。このような現象は植物、例えばカーネーションの切り花の延命効果にも見られています。

このように、ナールスゲン®および類縁化合物には、下記スキームに示すような用途開発の可能性が見出され、今後の展開が期待されています。

私たちナールスコーポレーション は、これらを具現化し、健やか（健康）で快い（快適な）生活を過ごすことができれば、健康寿命の向上に結びつくと確信しています。



沿革

2005年12月	画期的なGGT阻害剤の開発 京都大学・平竹潤教授らが生体機能ペプチド等の化学・生化学の一連の研究において、強力なγ-グルタミルトランスペプチダーゼ阻害物質 (GGsTop) を発見。さらに合成に成功。(のちのナールスゲン)	2012年3月	株式会社ナールスコーポレーション(資本金9,500千円) 設立 京都市のベンチャー企業目利き委員会でAランク企業認定 化粧品原料としてのナールスゲン®発売
2009年4月	ナールスゲンが皮膚にのみ特異的に効くことが判明 大阪市立大学大学院・小島明子准教授らがヒト皮膚線維芽細胞内コラーゲンおよびエラスチンの産生亢進を発見	2012年12月	関西ニュービジネス協議会「NBK大賞」受賞 近畿経済産業局「近畿経済産業局長賞」受賞
2009年12月	A-STEPの申請に向けプロジェクトチーム 日本科学技術振興機構 (JST) 研究成果最適支援事業 (A-STEP) に採択 申請にあたり、松本和男 (田辺製薬出身) が起業家として、共同研究のパートナー企業とともに参画	2013年5月	ナールスミントプラス®発売
2011年8月	エイジングケア化粧品原料(ナールスゲン)として商品化決定	2014年5月	資本金を19,500千円に増資
		2015年11月	ナールスミントジェル発売
		2019年7月	川崎元士代表取締役社長執行役員 就任
		2019年12月	資本金を40,775千円に増資
		2020年3月	京都市ソーシャルイノベーション研究所「これからの1000年を紡ぐ企業」認定
		2020年4月	本社移転

